

変えよう! 杉並区政

杉並区議会議員 杉並わくわく会議代表

松尾 ゆり



高円寺
学校
建設

住民運動に「スラップ訴訟」 説明会では盗撮

高円寺地域小中一貫校(高円寺中・杉四小・杉八小を統廃合)の建設問題で近隣住民の方々が今年2月から連日学校前で抗議活動をしてきました。ところがなんと、この行動を「工事妨害」として建設業者が訴えたのです。

建設業者が近隣住民を訴えた!

この訴訟の背景は、建設計画への住民の疑問に対し区がまともに対応できなかったことです。公共事業で事業者が訴訟を起こしたこと自体、前代未聞の杉並区の失態です。

【区の答弁】 訴訟を起こすことは知らなかった。妨害との認識は区も同じ。(←知らなかったはずがないし、本当に知らなかったのなら、区は請負事業者をコントロールできていないということ。)



一般質問で「隠し撮り写真」と追及
(杉並区議会ホームページより)

「スラップ訴訟」=いやがらせの訴訟

本件は、まっとうな民事訴訟とはいえない、いわゆる「スラップ訴訟※」と呼ばれるたぐいのもので。アメリカではスラップ禁止法もつくられています。

(※スラップ訴訟:「公的言論に対する戦略的訴訟行為」、恫喝・いやがらせ訴訟とも言われる。)

区主催の住民説明会で盗撮されていた!

訴状に添付された多数の写真はすべて本人が気づかずに撮られた「盗撮」写真でした。中には区主催の説明会において説明者席から撮ったと明らかにわかるものもあります(写真参照)。

【区の答弁】 工事業者は記録が必要と判断して撮影したものとの認識。説明会でどのように撮影していたかは把握していない。(←区主催の説明会で盗撮が行われていたのに、把握していなかったという言い訳は通らない。)

共謀罪の「先取り」

6月に国会で可決された「共謀罪」に対し、ふつうの国民が監視され、冤罪にあう不安が指摘されてきましたが、高円寺の事件に対し「共謀罪の先取り」「住民運動に対する抑圧」と心配する声が上がりました。

区長支持派の区議さんたちは見て見ぬふりですが、地域の民主主義が脅かされていることを正さずに、国政の過ちを正すことなどできないのではないのでしょうか。



東京新聞5月12日付で報道

子どもは「開発の邪魔もの」?

「あんさんぶる荻窪」廃止問題

杉並区は「あんさんぶる荻窪」と荻窪税務署の財産交換を来年の5月に行う計画です。築13年の新しい施設を惜しげもなく廃止する愚かな政策の理由は「大規模な特別養護老人ホームの建設」と説明されてきました。

しかし、本当の理由は福祉ではなく再開発にあります。

子どもを守るための規制

子どもの施設の周囲には子どもを守るための交通規制や風俗営業の禁止などが定められています。北口には上荻児童館、南口には荻窪北児童館(あんさんぶる)があり、どちらも駅に近いため、再開発を求める荻窪の一部の地主さんは前区長の時代か

ら「開発の邪魔になる児童館を移転させてほしい」と要望してきたそうです。

「あんさんぶる」廃止を止めよう

現在の田中区長になってから、子どもの施設はつぎつぎに廃止されてきました。

●南伊豆健康学園 ●科学館 ●久我山東原公園 ●向井公園 ●和泉児童館 ●けやきブール……。そして「あんさんぶる」までが廃止される計画です。このまま廃止させるわけにはいきません。私たち住民の声で、子どもの施設廃止にストップをかけましょう。



児童館 「機能の継承・充実」は「廃止・分散移転」だった

- 杉並区は40の児童館「すべてを廃止」する方針
- うち14館は乳幼児向けの「子ども子育てプラザ」に転換
- 小学生の居場所（学童クラブと「放課後等居場所事業」）はすべて小学校内に移設し、民間委託
- 昨年、第一号として、和泉児童館を廃止、乳幼児専用の「子ども子育てプラザ」に転換

コメント：区は「機能は継承するので廃止ではない」と強弁してきましたが、年齢ごとに事業が分散される「分散移転」であることを認めました。「子ども子育てプラザ」は「小中学生も来ていいですよ」といいますが、同様の政策を先行している他区では、乳幼児中心施設は行っても楽しくなく、次第に小中学生は来なくなったそうです。

- 下井草、成田西、高円寺北、大宮児童館を順次廃止の方針
- 「あんさんぶる荻窪」は来年春に廃止され、税務署になる計画

コメント：児童館は小学生を中心に中高生まで自由に利用し、スポーツや音楽、工作、読書などの活動ができる「児童」の「館」であり、安全な居場所でもあります。40館の児童館は杉並の子どもたちを支援する大切な施設。廃止計画の見直しが必要です。



杉並で
起きている
こんなこと

公共工事 一部の企業を優遇する ハコ物行政

- 高円寺小中一貫校：80億円を投じた巨大校舎。地元高円寺4社の共同企業体が受注。落札率は99.3%
- コメント：子どもが減ったからと統廃合するはずなのに、なぜか1080人も収容できる巨大校舎。地盤調査にも疑問が残ります。

- 「あんさんぶる荻窪」財産交換：代替施設（天沼3丁目複合施設）建設に38億円、学童クラブ等を移設する桃二小を丸ごと改築で33億円。天沼施設は落札率99.3%、桃二小は97.6%。

コメント：「交換」を口実に巨額の工事が行われます。高円寺同様、地元荻窪の会社が受注。

- 向井公園、久我山東原公園：
 - 民間企業の保育園を建設。開園後3年まで無料、その後も1000㎡を30万円など格安で賃貸。
 - 園舎建設費用は16分の15まで補助金
 - 7カ所の認可保育園建設に入札はなぜかキレイに1カ所1社ずつ。

コメント：公共の用地を保育園のためとはいえ私企業の事業に無償で賃貸するのは行き過ぎです。進出した企業にとってはこれほど「おいしい話」はありません。他方、実績ある区内の私立保育園運営法人からは「参入したくても募集期間が短すぎて間に合わなかった」という声が届きました。では応札した企業はいったいどうやって間に合ったのでしょうか。

阿佐ヶ谷 緑を伐採、ビル林立の計画を区が主導

河北病院の移転改築を発端として杉並区が阿佐ヶ谷駅北東地域を丸ごと変える計画を発表しました。

- 河北病院はけやき屋敷にビルを新築して移転
- 杉一小は河北病院跡地へ（完成は15年も先に）
- 河北病院の土地と杉一小の土地を交換
- 河北病院のビルを建てるため「けやき屋敷」を住宅地から商業地域に変更
- 「けやき屋敷」の緑はほとんど伐採される

コメント：この計画の本命は、病院や商業ビルを建てるために「用途地域変更」と「容積率引き上げ」を行うことです。すなわち、病院と地主さんのために容積をサービスしてあげるのです。さらに河北病院の土地は浸水地・汚染地で交換は「照応の原則※」に反し、区にとって不利な交換で区民の財産を毀損することになります。

（※区画整理事業では、値段がおりあうだけでなく、土質、水利、利用状況、環境等が釣りあわなければならない）



杉並区が計画する阿佐ヶ谷の再開発

保育園 「かくれ待機児童」はワースト5位

昨年「保育緊急事態宣言」を行い公園までつぶして保育園を建てた杉並区ですが「待機児童」はゼロにならないばかりか「かくれ待機児童」では全国5位。

順位	市区名	かくれ待機児童	待機児童
1位	横浜市	3257人	2人
2位	川崎市	2891人	0人
3位	港区	2510人	171人
4位	大阪市	2264人	325人
★5位	杉並区	1853人	29人

（朝日新聞調べ。昨年の待機児童が100人以上だった84自治体対象）

コメント：「待機児童数」からは認可施設に入所できなかった方のうち認証保育園や杉並保育室の利用者などが除外されており、実態とはかけはなれています。



上井草保育園の法人選定に疑問

民営化後の運営を行う法人の選定プロセスが異例づくめ。

- 1回目の選定委員会では、60点を上回った法人がなく「決定せず」
- 委員会を保護者4名から2名に。他方、委員の半数（5名）を区職員に変更
- 保護者委員の選出期間はわずか10日
- 新委員会発足前に区判断で公募開始
- 1回目の選定で失格したK法人に決定
- 新築の園にK法人の本部を移転する計画

コメント：法人本部を設置すればそれだけ保育スペースが減るのに、なぜこの法人の提案が選ばれたのか大いに疑問です。